

Fujitsu Technology and Service Vision 2017

エグゼクティブサマリー

shaping tomorrow with you

社会とお客様の豊かな未来のために



あなたが考える
未来のビジョンは何ですか？

富士通の調査によると、ビジネス・リーダーの75%は、自社の属する業界が今後5年以内に根本的に様変わりしてしまうだろうと回答しています。その大きな要因となるのがデジタル化です。

今、IoTや人工知能(AI)などのデジタル技術が、ビジネスや社会の中核に組み込まれ、人々の働き方や日々の生活に変化を起し、イノベーションを引き起こしています。

これが**デジタル革新**です。

既に、多くの企業がデジタル技術を活用して事業の成長を図ろうとしています。

Fujitsu Technology and Service Visionは、ビジネスや社会のリーダーに向けて、富士通が目指す未来のビジョンと、ICTを活用することによってどのようにイノベーションを起こし、これまでとは違う未来を創り出していくかについての考えをまとめたものです。私たちのビジョンの中心的な考えとして、**ヒューマンセントリック・イノベーション**というコンセプトを掲げています。これは先進技術で人をエンパワーする(力を与える)ことによって、ビジネスや社会のイノベーションを生み出す新たなアプローチです。

<http://www.fujitsu.com/jp/vision/>

その一方で、デジタル技術を活用した革新的なサービスを提供する新たな競合が参入してくる脅威にも、さらされています。

このように不確実な世界で、ビジネス・リーダーは、将来の革新的なビジョンを創り出すことを求められています。ビジネスの将来像をどのように描くのか？ これが、今、企業が問いかねなければならない最も重要な質問かもしれません。

これからのデジタル時代に、人、ビジネス、社会に起こり得る変革のシナリオを見ていきましょう。



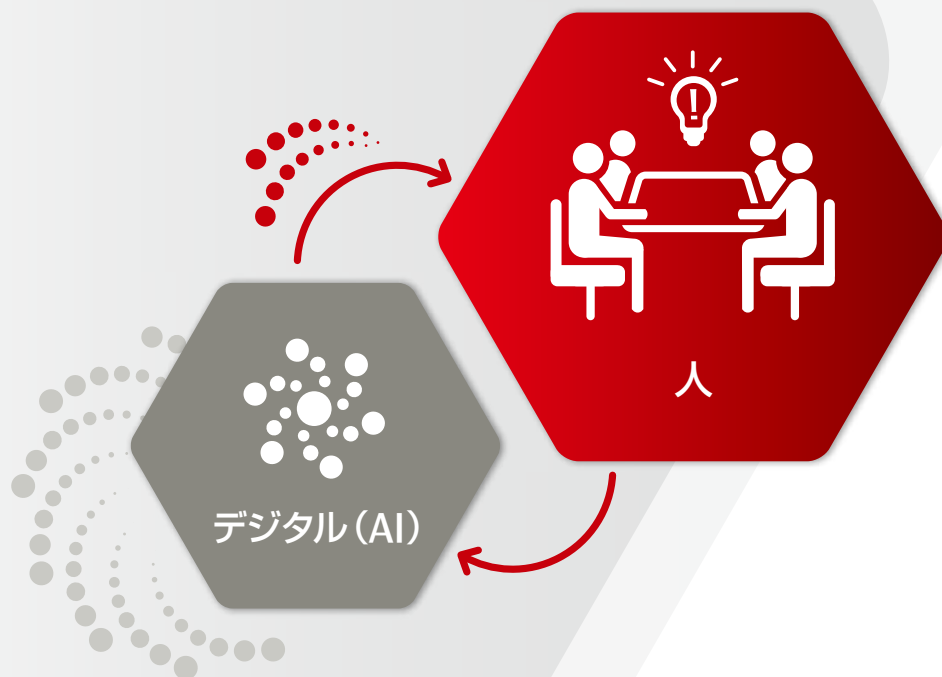
未来の働き方をどのようにデザインしますか？

現在、AIや自律型ロボットが急速な技術進歩を遂げています。ディープラーニング(深層学習)技術は、コンピュータが大量のデータを自律的に学習し、画像や会話音声を自動で認識することを可能にしました。自動運転車の公道での試験もすでに行われており、完全な自動運転も、一部地域で2020年までに実現する見込みです。

こうした新たな技術によって生産性が大きく向上することが期待される一方で、雇用に対する潜在的な脅威も議論されています。

どのようなタイプの仕事をAIが行えるのか、現実的な視点で見る必要があります。AIを活用したインテリジェント・システムは、データの統計分析や、画像の自動認識、音声応答などを得意とし、特定領域の仕事をうまくこなすことができます。しかし、人と同じように文章を読んで、意味を理解することはできません。直感や感情、創造性や、豊かな暗黙知といった、人に特有な能力を持っている訳ではないのです。





このように大きな変化の時代に、ビジネス・リーダーはどのような戦略を取るべきでしょうか。人の創造性とデジタル技術による自動化のメリットのバランスを取った、将来の人材・働き方をどのようにデザインすればよいのでしょうか。

AIを活用したインテリジェント・システムのサポートを受けて、コラボレーションしながら仕事に取り組む、未来のワークスタイルがすぐそこまで来ています。

インテリジェント・システムが必要な情報を検索し、自律的なロボットが骨の折れる作業をこなしてくれることによって、人はよりクリエイティブな仕事に集中することができます。インテリジェント・システムは、人から与えられた目的の下でのみ機能するのです。

すべての中心に人を置いて考え、行動することが重要です。私たちは、AIの分析能力が、人の創造性と補完的な関係にあるだけでなく、人に力を与えることを通じて社会に大きく貢献できると信じています。そして、AI技術をこの目的のためにのみ開発しています。

Customer Story

サンカルロス医療研究所様と富士通は、メンタルヘルスの分野で医師の臨床判断を支援するシステムを共同で開発。膨大な診療記録や学术论文などをAIが学習することにより、患者の健康リスクを85%以上の精度で迅速に予測することに成功しました。

* 詳細は、Book 2 22ページをご参照ください

デジタル・ビジネスをどのようにデザインしますか？

今、すべての企業がテクノロジー企業になりつつあります。企業は営業・マーケティングや研究開発、製造、物流など、中核的なプロセスにデジタル技術を組み込んで変革を進めています。

デジタル技術は、**インテリジェンス**、**つながり**、**顧客志向**という3つの力で、ビジネスや社会に革新をもたらします。この3つの革新力を考慮してビジネスモデルをデザインすることが、成功の鍵となります。



「インテリジェンス」が 差異化の源泉

AIが大量のデータを学習し、
ユニークな知見を創出

[例：金融] 金融市場でのアルゴリズム取引が普及。さらに、AI技術を活用した、投資ポートフォリオのアドバイスなど、データ分析に基づいたインテリジェンスの活用が進行中。



「つながり」が ビジネスを変える

社内オペレーション、社外のエコシステム・パートナーをつなぎ、ビジネスを変革

[例：製造] IoTで工場内の機械や設備、プロセスをつなぎ、リアルタイムに生産データを収集・分析し、スマートファクトリー構築。



すべてを 「顧客志向」に

供給側から顧客側へとビジネスの視点を移し、一人ひとりの顧客エクスペリエンスを創出

[例：流通] リアルタイムの位置情報を活用し、その場所とタイミングに合わせた情報提供など、コンテキストに応じたパーソナルなサービスを実現。





デジタル技術の革新力は、様々な産業をデジタル・エコシステムへと変貌させていきます。業界の壁を越えた多くの企業が共創し、一人ひとりにカスタマイズされた顧客エクスペリエンスや、新たな価値を生み出していきます。これが、「**デジタル・アリーナ(デジタル化された場)**」です。

例えば、金融の世界では、新たに参入したフィンテック企業により、モバイル決済などの様々な革新的サービスが提供されるようになりました。多くの銀行は積極的にフィンテックを活用し、新しいサービスを提供しています。金融と異業種との連携を通じて、人々が求める信頼とアシュアランスという価値を提供するデジタル・アリーナが形成されていきます。

デジタル化によって従来の業界の壁は曖昧になっていきます。企業にとっては、隣接するどの業界と協業することによって新たな価値や顧客エクスペリエンスを実現できるのか、デジタル・アリーナにおいて自社の商品をどのように位置づけるのかを検討することが重要です。

富士通は、お客様、パートナー様とともにデジタル・アリーナの形成に力を注いでいきます。

Customer Story

ふくおかフィナンシャルグループ様は、富士通のクラウド基盤を活用して、iBankプラットフォームを構築し、モバイルを使った顧客エクスペリエンスを提供。iBankプラットフォーム上でフィンテック企業や地元企業とつながり、地域のビジネスやコミュニティを活性化するデジタル・アリーナを形成しています。

* 詳細は、Book 2 24ページをご参照ください

デジタル技術はグローバルな課題の解決にどのように貢献できるでしょうか？

私たちは、数多くのグローバルな社会課題に直面しています。

世界全体で平均寿命が延びていますが、高齢化はグローバルな課題です。デジタル革新は、どのようにより良い生活の質の実現に役立つのでしょうか？

今、世界人口の半分以上が都市に暮らし、その割合が増加の一途をたどる中、どうすればデジタル技術を活用して持続可能な都市を実現できるのでしょうか？

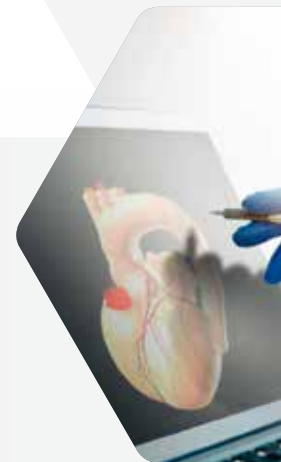
また、農作物の生産方法が大昔から全く変わっていない場所は今も多く存在します。どうすれば食料を安定して供給できるのでしょうか？

これらは、数多くの課題の一部に過ぎません。国際連合は、2015年に17の目標と169のターゲットから成る「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals : SDGs)」を採択しました。

企業は社会の一員であり、自社およびエコシステム・パートナーが属する、世界中のコミュニティに対して責任を持っています。グローバルな課題が拡大する中で、ビジネスの目標を社会共通の目標と連携させていく重要性がますます高まってきているのです。

デジタル技術は、私たちの未来を確かなものにするために、重要な役割を果たします。データから生み出されるインテリジェンスは、効果的な対策を見出すために役に立ちます。富士通はSDGsを強くサポートし、パートナーと共に取り組んでいます。富士通が関わるSDGsへの取り組み例を3つご紹介します。

持続可能な開発目標(SDGs)



3 すべての人に
健康と福祉を



SDGs目標 3：生活の質

スーパーコンピュータ上でシミュレーションを行うことにより、癌などの疾患に効果的な化合物をより迅速に発見することに貢献しています。また、東京大学様と共同で64万もの心筋細胞の動きを可視化できる心臓シミュレータを開発しました。

2 飢餓を
ゼロに



SDGs目標 2：食と農業

食・農クラウドサービス「Akisai」を提供し、農業の高度化に貢献しています。生産者と物流・食品メーカー、小売、さらに消費者をつないで、食のイノベーションを実現するデジタル・アリーナの形成を推進しています。



11 住み続けられる
まちづくりを



SDGs目標 11：持続可能な都市

シンガポール科学技術研究庁様ならびにシンガポール・マネジメント大学様と協力し、位置情報クラウドサービスなどの技術を活用して、混雑の緩和を実現するソリューションの創出に取り組んでいます。



富士通は、この他にも、教育の充実、気候変動への対応、あるいは産業イノベーション促進などのテーマに取り組んでいます。

テクノロジーは人々がより安全で豊かな、持続可能な世界を実現するための力になります。富士通は、こうしたこれからの社会を「**ヒューマンセントリック・インテリジェントソサエティ**」と呼んでいます。この新たなデジタル社会では、生活者と企業、公共機関が共創する様々なデジタル・アリーナが相互につながり合い、社会の共通善の実現に向けて革新的な価値を生み出し、していくことができると信じています。



Digital Co-creation

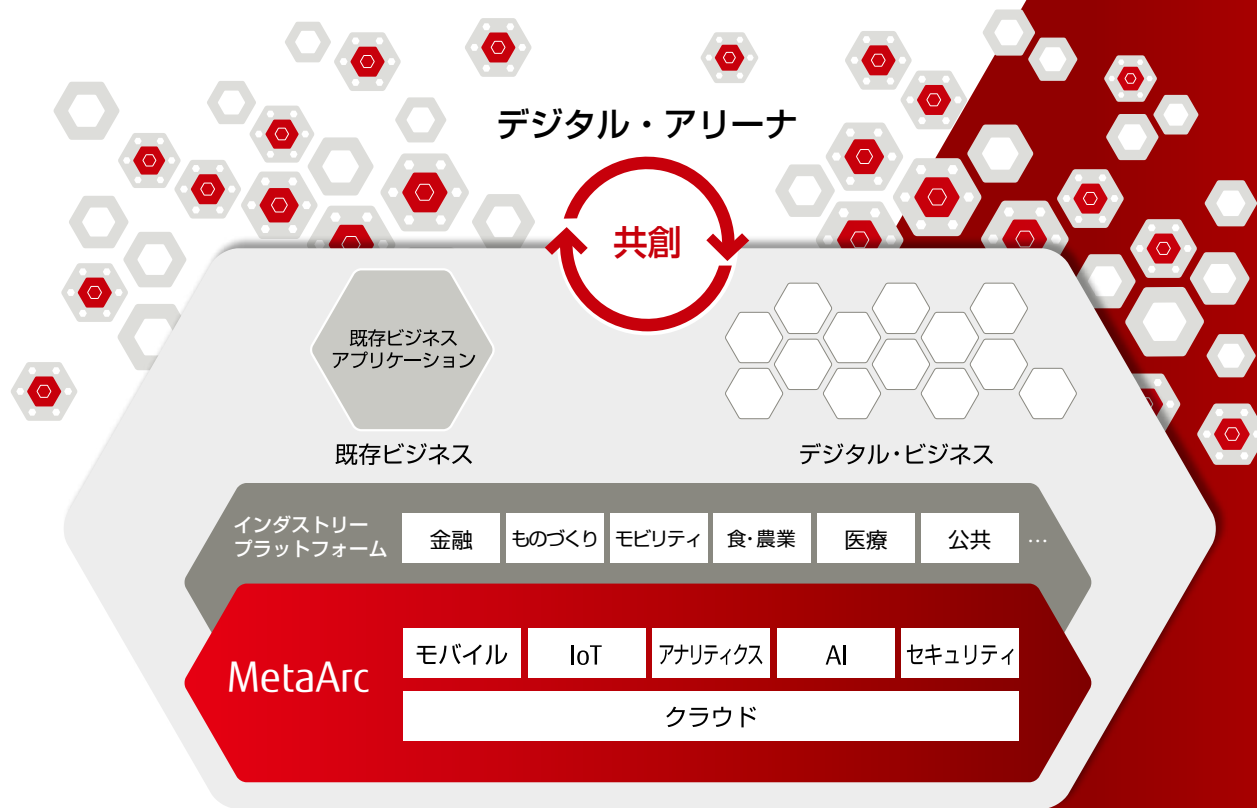
デジタル社会では、デジタル技術を活用した共創 **Digital Co-creation** がビジネスの新しいスタンダードになります。 **Digital Co-creation** とは、新たな未来を創り出すために、ビジネスのノウハウとデジタル技術を融合させ、顧客やエコシステム・パートナーと価値を共創するアプローチです。

デジタル革新を成功させるために、どのように **Digital Co-creation** を進めればよいのでしょうか？

最初のステップは、革新的なビジョンの検討です。デジタル技術の力が業界全体や自社のビジネスにもたらす影響と機会を評価する必要があります。

次のステップでは、デジタル・アリーナを活用して顧客価値を共創するために、どのようにビジネスモデルをデザインするのかを検討します。

第3のステップは、デジタル技術のビジネスへの実装です。



Digital Co-creationを進めるためには、これまでとは異なるテクノロジーが必要になります。それは、あらゆるものをつなぎ、データを学習して知見を生み出し、人の判断を支援するテクノロジーです。そのために、富士通はAIやIoT、クラウドそしてセキュリティの領域に注力し、これらを組み合わせて、「**つながるサービス**」として提供します。

これを具体的に実現するために、デジタルビジネス・プラットフォーム「**MetaArc**」を強化していきます。

「**MetaArc**」は、ハイブリッドクラウドをベースにデジタル技術をサービスとして提供。既存ビジネスと新しいデジタルビジネスをつなぎ、デジタル革新の基盤となります。

富士通は、81年間の歴史の中で、お客様とともにイノベーションの共創に努めてきました。今後も、お客様の**Digital Co-creation**パートナーとして、未来の創造に共に取り組んでまいります。

富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2

汐留シティセンター

電話: 03-6252-2220(代表)

0120-933-200(富士通コンタクトライン)

<http://www.fujitsu.com/jp/>

商標について

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

将来に関する予測・予想・計画について

本冊子には、富士通グループの過去と現在の事実だけではなく、将来に関する記述も含まれていますが、これらは、記述した時点で入手できた情報に基づいたものであり、不確実性が含まれています。従って、将来の事業活動の結果や将来に惹起する事象が本冊子に記載した内容とは異なったものとなる恐れがありますが、富士通グループは、このような事態への責任を負いません。読者の皆様には、以上をご承知いただくようお願い申し上げます。

「Fujitsu Technology and Service Vision」の一部または全部を許可無く複写、複製、転載することを禁じます。
©2017 FUJITSU LIMITED

環境への配慮

- ・森林保全につながるFSC®(Forest Stewardship Council®)「森林認証紙」を使用しています。
- ・VOC(揮発性有機化合物)を含まない「植物油インキ」を使用しています。



Fujitsu Technology and
Service Vision
ウェブサイト

2017年4月発行

Printed in Japan
FV0041-2